

令和7年度 第2回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和7年度 第2回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和7年11月25日(火曜日) 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市泉市民体育館 研修室
次第	1 開会 (1) 辞令伝達 2 報告・協議 (1) 第2次スポーツ推進計画の総括について (2) 第3次スポーツ推進計画の取り組みについて 3 その他
資料	・資料1 立川市第2次スポーツ推進計画(令和2年度～6年度)の総括について ・資料2 立川市第2次スポーツ推進計画の実施状況(令和6年度実績)について ・参考資料1 立川市第3次スポーツ推進計画(概要版) ・前回資料6 立川市第3次スポーツ推進計画
出席者	[委員] 原田 尚幸、芦澤 清八、隈崎 由紀子、山口 聡、永島 康雄、原 宏樹、 林 京子、吉井 英司、田尻 逸輝、山田 恵理 [事務局] 奥野 武司(文化スポーツ部長)、伊東 佐知子(スポーツ振興課長)、 上野 聖(企画調整係長)、秋元 公貴(スポーツ振興係長)、 濱田 真希(スポーツ施設係長)、下條 愛里咲(企画調整係)
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
担当	文化スポーツ部スポーツ振興課企画調整係 電話 042-523-2111 (内線 4411)

1 開会

(1) 辞令伝達

2 報告・協議

(1) 第2次スポーツ推進計画（令和2年度から6年度）の総括

＜資料1、2に基づき事務局（スポーツ振興課長）から説明＞

・（会長）質問などはあるか？

・（委員・資料2P8）地域におけるスポーツの推進の実施状況で、令和5年度の開催回数が139、令和6年度は416で回数が増えている。どういう要因があるのかを伺いたい。

・（事務局）基本的には12自治会からの報告に基づいて、集計をしている状況にある。詳細までみると、種目によっては年間40回、週に1回程度地域で行っている報告をされた地域があるので、定期的な開催が行われていたことで、数字が変化したと考えている。スポーツ推進が図れているのではないかと感じている。

・（委員）青少年の活動や、実際に12地区のスポーツ教室に足を運んだ際に、子供たちが集まらずに苦勞されているという話は聞いている。例えば太極拳を12地区のどこかの地区で毎週1回やっているというのもここに集計が入っていたりするという捉え方なのかと説明からは感じた。

・（副会長）令和5年度にコロナが5類に移行された。徐々に活動を再開し、6年度からやっと回復したというのが一番大きいかなとは思う。

・（委員）当然コロナが要因にはあると思うが、令和6年度に前年比3倍に増えた要因を、地域スポーツの活性化や課題解決に向けて分析する必要があるのではないかと考える。

・（事務局）12地区で連携して行う事業や会議もあるので、その中でこちらも把握できるようにしていく。

・（委員・資料1P1）「コンビニジム」業態などの比較的安価に利用できる民間施設拡大傾向にあるといった社会的背景も、体育館事業との競合が生じたとの記載があって、かつ施設の老朽化もある中で、市としてはどう評価するのか。つまり民間のジム等が沢山できてスポーツをする人が増えればそれはそれでいいことなのかなと思うが、官民のすみ分けや、これだけ見るともしかしたら体育館の利用者が減ったからよくないことなのかなという書き方に見えるが、評価としてはどうお考えか。

・（文化スポーツ部長）立川はありがたいことに民間の施設も多数ある。運動する趣向もかなり多様化してきている。駅の周辺やこの近辺でも24時間やっているジムが複数ある。そういう選択肢が充実している立川という街の状況からすると、こと市民体育館や公が提供している施設の利用者数の多い少ないだけで、スポーツの現状を語り切れない。民間と同じ方向を向いて公共の施設が同じサービスを提供して競い合うというのは、あんまり望ましいことではないのではないか。これだけいろいろな選択肢があるのであれば、声かけしなくても自ら運動するような方はその方のライフスタイルに合った選択肢のところをお選びいただく。公共の体育館が担う役割は、普段運動するきっかけがないとか、ちょっと体力が落ちてきているけど、いきなり運動してケガでもしたらという方に、まずこういうところから始めてみませんか？という、最初のきっかけを提供する場であったり、例えば教室事業だとか、年間の教室を通じて、一緒に活動するような仲間をつくる場をつくること。そういうのを通じて、教室が終わった後も一緒に練習できたらいいねとか。どここの地区の小学校で平日の夜に練習してる場所があるみたいだから今度一緒に行ってみない？というように、それぞれの活動に広がっていく。その最初の入口のつなぎや、敷居の低さを提供するのが公の施設の役割で、指定管理事業者や民間のジムと同じことをやる必要は、我々としてのミッションはないと思う。公共の施設としての体育館が担う役割をしっかり認識して、どういう事業をしていくべきなのかということと一緒に考えていきたいと思います話は常日頃からしている。悲観的には捉えておらず、むしろその役割分担をしながら、市民の運

動の機会が充実していく方向性にあるのであれば、結果としてどういう選択をされようが、問題がないかなというふうに考えている。

・(会長) 公共のスポーツ施設の利用者数というのは、他自治体でも立川市と似たような傾向にあって数字的にはコロナ前に戻ってないところが多い印象。確かにコンビニジムの数というのは増えてはいるが公共施設の利用者が減った理由が、必ずしもそれだけなのかといところまでまだ十分に把握できてない気はする。総数だけで見ているが、例えばその年齢層や、具体的に例えば教室事業なのか、それともトレーニング室の都度利用なのかとか、もう少し細かく精査していく必要がある。ただ、なぜ減っているのかは他の自治体でもなかなか明確に説明できている状況ではない。もう少し詳しく見ていくと何かヒントを得られるかもしれない。ちょうどこの第2次計画期というのはコロナの真っ盛りのタイミングで、なかなか数字が参考にできない状況の中で、とはいえ令和6年度がちょうどスポーツ観戦などでいうと、2019年度をようやく上回ったぐらい。ただ参加者の方は戻ってないといところが多いので、何で戻ってないのかっていうのがなかなかやっぱりわからない。例えば高齢の方がスポーツ観戦も含めてスポーツ参加も減ったのではないかという何となく感覚はあるが、それも数値的な裏付けというのはまだない。コロナになってフィットネスクラブや施設が閉鎖になって、皆さんが身近なところで運動するようになった。だからもうあえてお金払ってまで行く必要はないと思って戻ってきてないのか。例えば自宅でYouTubeを見ながらできるわけで、そうすると施設を利用しなくても安価にライフスタイルの中で運動やスポーツを取り入れることもあると思うが、それを明確に示したものがなく大変興味深い。コロナで大手のジムやプールとか、軒並み打撃を受けて、採算も取れないところを閉鎖してしのいできたという経緯がある一方で、小規模店舗で、駅前展開できるようなジムが伸びたというのは傾向としてはあるが、コロナ後の人々の運動スポーツの形態がどのようになったのかっていうのは十分に把握できてないという感覚はある。決して、利用者数が少ないから悪という話ではないが、市スポーツ施設利用者数で、2019年の数字が全体でいうと99万6,004人だったのが、令和6年度で82万2,103人までしか戻ってない。この辺の理由も引き続き丁寧に見ていけば何かヒントがあるのかなと思う。ちなみに立川ダイスの観客数はコロナ前から戻っているのか？

・(委員) ダイスはちょうどコロナが終わってから参戦をして、コロナの頃はまだ参戦してなかった。ただBリーグの他のチームはコロナ前に戻っていて、さらに去年からはそれより多いイメージがある。

・(会長) 立川市でスポーツ観戦者数のデータはあるか。

・(文化スポーツ部長) プロスポーツ連絡会に参加している各チームから年間の活動報告みたいなものは、それぞれ共有はしていただいている。ただし、ここ数年で立川市をホームタウンに置くチームが増えていて、それぞれの競技が今まさにファンを拡大中の傾向にある。それがコロナ前との比較というよりは、着実に右肩上がりの過程にある状況で、観戦者の数自体は間違いなく増加傾向にあるのではないかと。

・(委員・資料2P11) 既存スポーツ施設等の整備・充実は、とても大事なと思うが、立川公園陸上競技場の基本計画改定に向けた検討を行ったとの記載があって、第3次計画の中でも、スポーツ環境の充実というところで、候補が上がっているとは思いますが、陸上競技場は、観客席が耐震耐えられないということで、壊してコンクリートにした状態が続いていて、予算もあると思うけれども、どういう風に施設を向上していこうと考えているのか。

・(文化スポーツ部長) 陸上競技場は委員おっしゃるように、もう10数年来、老朽化した施設をどう改修していくかっていうのをずっと検討していて、いまだ事業着手ができていない。一番大きな要因は、やはりこの間の建設コストがもう異常に高騰してしまっている。また、学校施設の建て替え、老朽化した学校施設を圏域ごとに整備していきましょうという中で、古い建物を建て替えてそのタイミングで例えば小学校の建て替えに合わせて児童館学部を施設内、敷地内に一緒に建てるなど、いわゆる機能の合築みたいなをしていく方向性で計画は作っていて、第2小学校の建て替え以降に5中、3中、3小の順番で進めていく予定だったが、何とか2小は事業者が決まって工事を始められる状況になったが、5中は事業者の手が挙がらず、設計の施工を

分けてまず設計だけ走らせて、ようやく設計事業者が決まった状態でその後の施工も順調に進むかどうかはまだみえてない。そういう状況の中で、昨年度から本来だったら9月いっぱい終わる予定だったが、校舎が今後、あと何年使えるのか、耐用年数は大丈夫なのかを調べる調査を昨年度から今年度にかけてやっていて、場合によっては、建て替えるっていう方針だったものを極力使い続けられるのであれば、使い続けるような改修の方向でいけないかっていうのを今一度診断をしている最中。市の公共施設の中でも、学校というのは、子供たちが毎日通う場所っていうだけではなくて、地域における拠点機能を持つ、災害時の避難場所になったりとか、公共施設の中でも本当に核になる施設なので、そこの更新の方向性でそこにどれだけお金がかかるのかっていうのがある程度見えてこない、どうしても陸上競技場とか市民体育館とかっていうのは、優先順位が少し下がってしまう。今やっている学校の調査でどう改修が可能なのかわかっていうのが、ある程度見えてくると、今後の他の公共施設の改修にも一定の方向性が整理されてくるものと思っている。今の状況はまだこの計画の見直しをしたところから前に進めてないが、市が管理している公共施設全般に影響するような小・中学校の状況が整理されるとようやく陸上競技場の問題にも動きが出てくるのかなといった状況ですので、具体的な動きはまだ動きを取れない状況にある。

・(委員) 基本計画の改定に向けた検討というのは、陸上競技場の改修をするということか。

・(スポーツ振興課長) 基本計画をこのタイミングで1度見直している。陸上競技場は何十年もどういうふうにするか検討していて、今後どうしていくかということについて、基本計画をもとに設計・施行していく。

・(文化スポーツ部長) 簡潔に言うと、以前作った計画は、陸上競技場でも割とフルスペックなもの、いわゆる陸上競技場としての2種を目指して整備をしていくという方向性で計画を一応作ったが、先ほど話した公共施設のコストの向上だとか、果たしてそのときの計画通りに進めていってどれぐらい利用いただけるのかとか、諸々を考えたときに、より多くの方に普段使いしていただけるような施設としての整備の方が今の状況からすると望ましいのではないかということとで、少しその整備の水準を下げたような計画に見直した。

(2) 第3次スポーツ推進計画の取り組みについて

＜前回資料6、P31、4章基本方針1に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明＞

・(会長) 第3次ですので、今年度から具体的にも取り組みが始まっている。基本方針1は、誰もがスポーツを楽しむ機会の創出ということだが、意見、質問などはあるか？

・(委員) 「市民あるけあるけ運動」ですが年2回開催、モルックの大会は今度の11月29日に年に1回開催、スポーツ推進委員も2年で交代する方もいらして、審判ができる人もそろわなくなってきていて、この間ボッチャの審判を私自身も初めてやった。名目は大会だが、審判の練習会もそのなかでやった。推進委員のレベルも少しずつあげている。年間で推進委員の事業もなかなかやることができないなか、自分の町でどこまでできるかについては、すごく差がある。富士見町は、それこそ全部の公園でやる勢いで頑張っていたが、柴崎町は年に2回ぐらいがやっと。教室という形ではできなく、体験会としてやった。推進委員のなかでも、すごく活動の差がある。推進委員の方でも、自分の町、町会へ帰っていったときに、差があるので、みんなで同じように足並みを揃えてっていうことが難しく、立川市の中そこまでやりなさいとあっても、推進委員としてやりたいなっていうのはあっても、難しい。少しずつでも同じようなレベルに持っていくことができれば、推進委員だけだと無理なので、体育会など少しでも足並みが揃えられたらというのはある。

・(会長) ボッチャとモルックを選んだ理由はあるのか。市民にニーズがあるのか。

・(委員) 東京の中では、立川市は遅れているが、23区では人気があり、世界大会もあるので日本代表っていう方々もいる。立川はまだ下火だが推進委員の方で体験会があって、それをボッチャと並行して、両方できないかということでスポーツ振興課から話があった。ボッチャは市民大会、市町村大会もある。モルックはまだ遅れていて、市民大会はない。

・(事務局) スポーツ推進委員の皆様にはいろいろやっていただいて助かっている。今度の週末にもモルック大会があるが、市民の方の認知度が高いのか、募集があつという間に去年に比べて埋まってしまうような形で、かなり広がっている状況ではあるというふうには思っている。我々スポーツ振興課の方でも、モルックの貸し出しも行っている中で、いろいろな団体が普及する活動に使っていただいているのもあり、市のなかでは、浸透してきていると思っている。推進委員の活躍が、貢献していると思っている。

・(委員) 錦町体育会では、モルックの講習をやりますと言って人集めをしてもなかなか集まらないので、例えばグランドゴルフ大会をやるときに、モルック体験のコーナーを作って実施すると結構やる方が多く盛り上がりやすくなる。子供も参加し楽しんでいる。これって面白いよ、簡単だよ、といって、どんどんモルックの人口を増やしていく。モルックはボッチャよりも器具が安いので浸透しやすいのではないかな。なわとび検定するときモルックを用意しておくとも興味を示してくれる。そのようなことを相互作用で、やっていったら結構流行ってくるのかなと思う。

・(委員) 錦町でも取り組んでいるようにそれぞれ取り組み方があると思うが、柴崎町ではそのようにいかない。

・(会長) スポーツ推進員の皆さんが集まって情報共有するような場はあるのか。

・(委員) 今のところ共有ができてない。推進委員の定例会のときに少しずつ話をするのは始めた程度。

・(会長) もう少し情報共有などしてうまくいっているところを参考にして取り組んでいくなど試行錯誤が必要ではある。まだまだ取り組みが始まったばかりということでも感触としては可能性がある。モルックは年齢とか関係なく、その場ですぐゲームができるのか。

・(委員) モルックはボッチャより簡単。子供でも教われればすぐその場できる。

・(副会長) 地区体育会の考え方一つだとは思うが、富士見町は、防災訓練のときにモルックを校庭の片隅でやったり、ベジフェスでもスポーツ協会、スポーツ推進委員中心でやったり、そういう活動をしながらやっている。市民体育大会の中で種目をやろうとすると、経費を精算する団体がない。スポーツ協会では、加盟団体が所属していて、例えば野球の大会は野球連盟が精算をするが、加盟団体のない大会は精算する団体がないので、ニュースポーツに対して市民体育大会としてできるものがあるならばどうするか今後課題にはなる。市からの預かり金を管理するので、団体がしっかり管理しないといけない。新しいものをどんどん入れていきたいというのは承知しているが、取り扱いをどうするか。対応できるようなことはしていきたいと思う。

・(委員) 「第3次スポーツ推進計画」P36 にたちかわ健康ポイント事業のことが書かれていて、圏域内の他市でも同じような取組をしている。ここでは「健康を目的とした事業と連携する」という限定的な書き方になっているが、こういう事業をもっと大々的に、スポーツをすることによって健康ポイントが溜まっていくような仕組みを推し進めてみてはどうか。例えば先ほどの体育施設の利用が低迷しているのであれば、施設を利用したら、ポイントが付与されるというような取組である。もともとスポーツと健康はセットという考え方もあるので、こうした事業を活用して、きっかけ作りということで、そういうような取組を進められたらいいのではないかな。最近他市でもやられていて、例えば運動することによってどんどんポイントが貯まって、お金の代わりに使えるような形になっていると聞く。そういうことがきっかけで、例えば体育施設を利用するよう誘導できるかもしれない。

・(事務局) 先日、令和8年指定管理者の審査会というものがあり、そのときに、指定管理者が次の提案のところで、来館者に対してポイントが付与する事業みたいなことを実施していきたいという話が出ていた。指定管理者の中では、多分独自の取り組みとして考えているとは思いますが、今お話いただいたように市の健康ポイント事業が既にあるので、それを活用するのも一つの手だと思う。今後、指定管理者にはこちらから提案してみても実現可能性がどれくらいあるのかという今後の検討にはなるかと思うが、調整していきたい。

・(会長) 別の会議の場ではアプリを作ればいいのではないかと、ポイントをいろんなところで使えるようにすれば経済が回るという話も出た。まだ実現に至っていないが、実際に取り組んでいる自治体とかもあるので、そういうのを参考にしながら、開発的動機づけではありますけれども、インセンティブになれば運動スポーツのきっかけにはなるかもしれない。アプリ作成の予定はないのか。

・(スポーツ振興課長) スポーツ振興課としては予定はないが、健康推進課の方ではアプリではないが、ポイントで何かがもらえるという事業を行っている。

・(委員) たちかわ健康ポイントは、ずっと参加していて、クラフトビールが当たって、すごく嬉しかった。ポイントが全然貯まらなくて、8000歩以上だと50ポイント加算されるが、3000歩だと5ポイントぐらいしか入らないから、今日歩かなきゃみたいなのを家族でみんなで歩いたりとかもしている。ただ、この事業を知っている方は私の周り、友達とかでも全然知らないの、SNSとか活用したらどうか。自身も今回やるのも知らなくて、たまたま子育てひろばで掲示板があっつぱと見て気づいたので、立川市にもせっかくLINEとかあるので、そういうSNS活用すれば、もっと10代20代30代の若い方、あまり体育館とか使用されない方に周知できて、何かポイントをもらえるのだったら結構ポイ活が流行ってるので参加しやすいし、スポーツを行う割合が増えるのかなと思ったのでいいかなと思う

・(委員・資料2 P11) 学校開放事業について、学校開放利用者数が令和2年度から令和5年度までは増加傾向にあるが、令和5年度から令和6年度に関しては、少し減少していることに関して、原因と目標値に近づけるためのこれからの取り組みであったり計画があるのか。

・(事務局) 細かくは分析できてないところではあるが、学校開放の主体として遊び場というのが、今、公園ではボール遊びができないので、学校の土日を開放して機会を提供しようというのと、校庭・体育館開放は、学校と調整して団体が年間通して活動するという3つの事業の合計数値である。学校開放は利用団体が多くて、飽和状態ではあるのでおそらくそちらの数字よりも、校庭の遊び場開放の数値にはなと思うので、ボールを使った遊び場を周知することになるかと思う。学校開放の団体の利用者に対しての動きは難しい。

<前回資料6、P37、4章基本方針2に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明>

・(会長) 意見、質問などはあるか？

・(委員) オリンピックの時に、陸上競技場で市民大会か何かで近代三種みたいなことを小学生たちがやっていた記憶が四、五年前ぐらいにあるが最近もそういうことってやっているのか。当時、中学校でも催しをやるので、参加してくださいというチラシを配ったりして、子供たちが普段体験できないことができるというので、数年そういうのは見てないなと思っているが、そういう事業は今、継続されているのか。

・(事務局) 今年度は柴崎市民体育館の改修の絡みで事業が実施できないが、昨年までは確かに毎年実施はしている。令和8年度以降については、体育館が改修後に、実施する予定ではある。

・(文化スポーツ部長) 近代三種の種目が、公認プールと競技自体が陸上競技場のトラックを使う部分が組み合わさっている。それが近接しているあその場所だからこそできた。そもそも近代五種競技自体、立川市でやるきっかけになったのは、警察の方々が練習しているということと、その中でオリンピックが立川から出たことをきっかけに、スポーツの総合力を競うような競技の中から、中学生世代でも参加しやすい三種をやってきている。たまたま今年ができていない状況だが、今も引き続き泉市民体育館で近代五種の練習はしているので、協会との関係性は今も継続している。

・(委員) 今年度はやっていないという状況など学校への周知等も少ない感じがする。SNSなどで情報がうまく浸透していけばいいと考える。

・(文化スポーツ部長) オリンピアンが出たというのがきっかけで、取り組みを始めた時の熱量と比べると、たしかに下がっている。担当者のなかで毎年のように定例的にやっていた可能性もある。ご指摘いただいたことも含め、より多くの人に参加していただくための広がりや、水泳の部分と、さらに普段なじみのない射撃をやるという普段は陸上競技を専門にやっている子ではなくても、比較的トライしやすい。改めて来年度以降の取り組みに向けてはどういうふうな形で周知をすると、より多くの方に興味関心を持っていただけるのか精査が必要。

・(会長) 立川市の最近のスポーツという話になると頑張っているという話は聞くので、ホームタウンチームとの連携とか協働っていうのは、市の内外にアピールするには、かなり有効なのではないかと個人的には考えている。シティプロモーション事業だが、もちろん市民の皆さんが健康的なライフスタイルを確立するために計画というのはあるが、また別に、立川市に住んでいてよかったとか、あるいは立川市にゆかりのチームをみんなで応援していくような雰囲気の醸成だったりとか、そういうのが大事なのかなと。シビックプライドというそういうこともありますけども、何かそこら辺ももう少し積極的に進めてもいいのかなと思う。

・(委員) 立川ダイスも、立川市には結構応援していただけて、プロモーションしていただいているが、立川市は非常に施策が充実している感じはある。課題の一つとして周知というか、認知というか、どうやって知ってもらわなければならないかとは思っている。逆に我々、プロスポーツ団体とかが事業の認知を広めるために立川市がやっている何かをどんどん発表していくという相互のプロモーションの関係があればいいと思う。立川ダイスだと、ホームゲームが年間 26 試合で大体 7、8 ヶ月ぐらいで 2 週間に 1 回ぐらいやっているの、そこで何か立川市のブースを作って、チームとして出していくっていうのはありだと思う。立川の方や近郊の方がスポーツに関わってくる時間が増えれば増えるほど、我々のプロスポーツチームは得をするということが増えるので、きっかけの入口は何でもいいと思うので、いろんなプログラムがあることをお互い双方にプロモーションできると一番いいかなと思う。

・(文化スポーツ部長) プロスポーツチームと連携協定を結んだ事例が今年度入ってから三つある。一つは、東京ヴェルディ。二つ目は、ハンドボールのジークスター。三つ目の読売巨人軍は、たまたまヴェルディのホームタウンの試合で立川市のブースを出していたときに、改めて地域連携型のホームタウン活動っていうのも力を入れていきたいという話を向こうからいただいて、連携協定という形になった。立川の強みの特徴の一つがやっぱりこのプロスポーツチームの多さであり、委員がおっしゃったように双方の PR っていうのが開かれていくと、やっぱりスポーツが盛んな街の印象だとか、それによって応援する対象があるっていうことで日々の生活が生き生きしてくるとか。今年、広報たちかわで立川ダイスのチーム紹介を一面と、見開きを使ってダイスの選手が何人も出てくる、みんなで応援しようというのをしたが、やっぱり街を挙げて、その地元のプロスポーツチームを応援しようとか、応援することを通じてスポーツに触れる機会をという意味ではすごくインパクトのある紙面になった。そんな取り組みが他のチームの企画としてもあっていいし、そういう意味では立川非常に恵まれているし、我々もそこを切り口にスポーツ振興を図っていきたいという思いはある。

・(委員) ダイスのチアリーダーが、第 3 小学校にきて子供達にダンスを実際に見せている。すごく子供達が喜んで一緒になってやってるらしい。また、アリーナ立川立飛にオリンピックで優勝した体操の選手たちが来てくれたこともあり、実際に演技を生で見られるの貴重な経験でした。

＜前回資料 6、P41、4 章基本方針 3 に基づき事務局（スポーツ振興課長）から説明＞

・(会長) 意見、質問などはあるか？

・(委員) 指導者講習会っていうのがあるが、指導者講習会を終了する資格をもらえて、指導者になれます。そうしないと個人的な感覚だけで教えちゃう人もいますので、この人はこういった指導者の資格を持っていますよっていうのがあれば安心して教えてもらえるのかなと思った。

・(会長) 指導者講習会っていうのは、立川市独自のものか？

・(事務局) 100 トレ体操のことを示している。実際にこちらの事業を行うことによって、その

資格を取った方が、地域に戻っていただいてそこで広げていく指導者講習会でこれは独自ではない。また、スポーツ協会さんに委託をしている事業で、資格というよりは広くそういう知識を競技団体に知ってもらってというところで展開している指導者育成事業を行っている。

・(会長) 例えば先ほどのモルックの指導者が不足しているということであれば、例えば市民の中から興味のある人たちを指導者講習として関わってもらうとか、地域移行のところで体罰やハラスメントにならないために講習会をやっているような流れがいろんなところで出てきているので、それを指導者講習会に絡めて、地域で部活動の受け皿として、指導ができるとか、そういうことまではまだいってないのか、あるいはそこは求めているのか。

・(文化スポーツ部長) まだなかなか水面下で動いているレベルの話だが、実は東京女子体育大学さんが、今年度、部活動の地域連携・地域展開の受け皿になるべく、一般社団法人のTWCPEを立ち上げた。指導者養成の取り組みを来年度以降やっていきたいという意向を持っていて、我々もそこに例えば地域の体育会だとか、連盟、協会の人たちで、例えば最初は外部指導員として学校からもし要望されたいけるようなスキルを身につける。子供たちへの接し方とか、よりモチベーション高く取り組んでいただくための声かけの仕方だとか、そういうことを大学としてカリキュラムを組んで、一定の認定みたいな形をとって、その上で、人材バンク的な登録をして、希望する中学校にマッチングをして派遣するような取り組みを展開していきたいという考えを持っている。そこに我々はうまく何らかの連携を図りたいということとその仕組みを今模索しているところである。できれば東京女子体育大学自体は、多摩地域の今五つの自治体と連携協定を結んでいるという関係性があるので、複数の自治体がこの大学という地域資源を使って、一緒にそういう取り組みできないかを模索している最中。それを受けるにあたっての個人負担がなるべくない形で、行政の方がある程度後押しして、参加いただけるような仕組みを今検討しているところ。それが動き出すと個々の取り組みがずいぶん成果に繋がってくるのではないかと。

<前回資料6、P45、4章基本方針4に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明>

・(会長) 意見、質問などはあるか？

・(委員) 柴崎体育館のすぐそばにある公園には、鉄棒、ぶら下がりの器具、体を柔らかく伸ばす器具が設置されていて、結構子供連れのお父さんお母さんがやっている。そういうのも公園に設置することを考えていったらいいと思う。

・(会長) 全体を通して意見、質問などはあるか？

・(委員) 老人会にもグランドゴルフ大会っていうのがあってそこで2位までに入ると、都大会に出られる。老人会にも体育部がありスポーツ活動をしている。いろんな団体と連携して若い人と高齢者が一緒に活動していくことができればと思う。

3 その他

(1) 委員からの情報提供について

・(委員) 今年錦町運動会は第79回で、来年は80回を迎える。ということは昭和21年、戦争終わった翌年から運動会が始まっている。戦争が終わって楽しみが少ない時期、運動が好きな人達が集まって体育会が発足した。歴史のある運動会である。体育会役員が2か月前から会議を持ち老弱男女誰でも楽しく参加できる運動会を模索してきた。それからポスター展というのもやっていて、運動が不得手な子供にも参加できるものはないかということでポスター展を企画した。もう一つの困ったことは中学生になると急に運動会に来なくなる。出るのがかっこ悪いという思いがあるようなので、中学生をスタッフとして参加をお願いしたところ参加してくれるようになった。(運動会概要についてご説明)

・(会長) 皆様から追加でご意見はあるか。

(意見、質問なし)

・(会長) 以上をもちまして、第2回市川市スポーツ推進審議会を閉会とする。
閉会